様式 2

公共事業再評価調書（2回目 再々評価）

主管課：　河川課

1 事業概要	事業名：　比謝川基幹河川改修事業		前再評価年度：平成15年度
	事業種別：基幹河川改修事業	事業主体：　沖縄県	（S54 ～ H25）
	事業箇所：沖縄市、嘉手納町	根拠法令：　河川法	事業期間：S54 ～ H30
	（15,627） 総事業費(百万円)：　19,977	費用内訳：　補助　9/10	（13,200） 事業量(m)：　13,200
（整備目的）	多発する浸水被害を解消し、治水安全度の向上を目指す。また、環境に配慮した多自然川づくりを目指す。		
1-2 前再評価以降の計画変更	水辺プラザ整備事業の実施に伴う総事業費の見直し。また用地買収の進捗を鑑み事業期間の延長を図る。		
2 再評価該当項目	■ ① 再評価後一定期間（5年）を経過　□ ② 事業の中止　□ ③ その他（　　）		
3 再評価に至った主な要因	□ ① 用地取得の困難　□ ② 調査・設計の困難　□ ③ 事業の拡大　□ ④ 予算の確保 □ ⑤ 手続き・法令の問題　□ ⑥ 他事業との関係　□ ⑦ 整備効果の問題 ■ ⑧ 当初計画が長期間　□ ⑨その他（　　）		
（具体的理由）	事業が平成25年度までの長期計画となっている。		

4 事業の進捗状況（H20.3 時点）

項目	事業費（百万円）	整備（km）	用地取得（千㎡）		
計画	19,977	13.20	268.1		
実施済	11,225	7.42	118.7		
率	56 %	54 %	58 %		

4-2 前再評価以降の主な進捗：国道330号を横断するボックスカルバートの整備と、その下流側の住吉地区(水辺プラザ)の護岸約300mを整備した。

5 事業効果の評価指標

（検討年 整備期間+50年）

（基準年 H15）

（単位：百万円）

① 一般資産	61,159	① 建設費	19,977
② 農作物	762	② 維持管理費	6,116
③ 公共土木施設等	103,603		
④ 間接被害額	5,436		
便益(B)	170,960	費用(C)	26,093
⑤ 残存価値	366		
基準年換算（B）	87,453	基準年換算（C）	29,371

費用便益比（B／C）＝　87,453 ／ 29,371 = 3.0

6 事業を巡る状況の変化（前再評価以降）

① 社会・経済：　沖縄市による都市緑地整備事業等、関連事業と併せて、地域との交流の拠点として近隣商業施設と連携したイベント開催の予定や、近隣小中学校の河川環境学習の場として活用していく予定である。

② 地元・自治体：　集中豪雨等による浸水被害があることから、早期改修の要望がある。

③ 利害関係者：　用地買収が困難な地権者がいる。

7 事業の必要性・効率性

① 事業の必要性・緊急性・有効性など：

比謝川流域は住宅が連担し、近年は集中豪雨等による浸水被害が多発し、地元からは早期整備の要請もあることから、ボトルネックとなる橋梁を早期に改修し、浸水被害の軽減を図る。

② 事業の効率性（代替案等の可能性、コスト縮減）：

今後、未整備区間において地元と一体となった河川整備に関するワークショップを実施し、多自然川づくりと併せコスト縮減を念頭においた整備計画を策定し事業の高効率化を図る。

③ 事業効果の発現状況：

国道ボックス上流側の安慶田地区での浸水被害が軽減された。また、国道ボックス下流側の住吉地区については、水辺プラザの整備により浸水被害が解消されている。

8 今後の対応方針・見通し

① 事業計画等：　未整備区間におけるボトルネックとなる橋梁を改修するとともに、地元と協働し作成した多自然川づくり整備を推進し、平成30年度の完成を目指す。

② 対住民関係：　用地難航箇所は、自治会および地元自治体の協力を得て鋭意用地買収に努める。

③ 執行体制等：　現在の組織体制で特に問題なし。

9 評価：■ ① 事業継続（現計画）　□ ② 事業継続（見直し）　□ ③ 事業の中止

10 その他（前再評価での主な意見等）

・比謝川のように70%の断面で臨機応変に改修することは大事である。ただし土砂堆積により河道を狭めてはいけないので、河川管理が重要である。
・自然を取り込んで川を蘇生させることは大事である。環境問題を含めた地域住民の意識を高める必要がある。
・都市部だけでなく地方の河川も汚濁が進んでいる。今後の河川のあり方について、視野を広く持って取り組んでほしい。